菊池多賀夫先生の逝去を悼む

中村武久

日本マングローブ学会の副会長、前横浜国立大学教授の菊池多賀夫先生には、去る８月２９日永眠されました。先生のこの訃報に接した時、私は先生の急逝に只々びっくりしたのですが、後で伺うところ、一昨年辺りから腸のポリープを切除していたのが、進行して癌になり、このところあちこちに転移していて、遂に帰らぬ人となられたとのことでした。それを伺った時驚いたのは、昨年のマングローブ学会大会にも元気でお出でになっていましたが、そんな様子は全く見せませんでした。普段から温和で芯の強い先生のことですから、そんな状態を人には感じさせないようにしておられたのだと思います。

私にとって先生は年齢こそ若いのですが、何を隠そう、私が東北大学の飯泉茂先生に学位論文を提出した時、当時菊池先生は助教授として飯泉先生の下に居られ、私の論文の実質的な査読者であり、指導者でありました。論文の草稿を見てもらいに時々先生の研究室へ伺った折、私がやっていたミクロネシアや東南アジアのマングローブのお話を致しました。そのようなご縁から先生のマングローブ関連の研究も始められたように記憶しております。

何時のことだったか、先生がマングローブ調査で、南太平洋のポナペ島やコスラエ島に行かれ、そこで採集されたマングローブの標本数枚と、私の論文で御承知であったのか、マングローブ林には見られないシダの標本を３０枚ほど送ってこられ、同定してくれと言うことでした。早速同定し、ご返事を差し上げましたが、この時こそ、先生の本当に優しいというか、思いやりの心を持った人柄を実感しました。

日本マングローブ学会を組織してから、先生は学会員として協力していただき、更には２０００年からは、副会長として学会の運営ならびにマングローブ関連の研究指導に当たっていただきました。先生の専門は生態学でしたが、特にマングローブの生態については、地形や潮の流れ等、マングローブ立地との関係について、大変優れた研究成果を残しておられます。

私より若い先生が逝かれたことは、なんとも寂しい限りであります。マングローブ学会にとっても、大変大事な指導者を亡くしたことは、なんとも残念です。深く御冥福をお祈り申し上げます。